

議事要旨

会議名	令和7年度 第1回芦屋町学校給食センター運営審議委員会					
会場	芦屋町役場3階 31会議室					
日時	令和7年6月27日（金）15時30分から16時40分					
委員の 出欠	委員長	石松 誠	出	委員	岩崎 真樹	出
	副委員長	石川 幸江	出	委員	鴨川 亜紀	出
	委員	三桝 賢二	出	委員	小笹 智子	出
	委員	田中 孝一	出	委員	秋枝 愛乃	出
	委員	吉川 亨	出	委員	福田 ミネ子	出
	委員	松室 七恵	出	委員	山崎 美香子	出
件名・議題	<p>(1) 教育長あいさつ (2) 委嘱状の交付・各委員の紹介 (3) 委員長・副委員長選出 (4) 議 題</p> <p>① 学校給食センターの概要について ② 令和6年度 学校給食センター決算について ③ 令和7年度 学校給食センター予算について ④ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校の残食率について ・次回のスケジュール等 					
合意事項 決定事項	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長に石松委員、副委員長に石川委員がそれぞれ選出された。 ・議題について事務局から説明を行い、了承された。 ・次回は給食費の値上げについて検討すること及びスケジュールについて説明した。 					

裏面に続く

<議題1「学校給食センターの概要について」質疑応答および意見>
なし

<議題2「令和6年度 学校給食センター決算について」質疑応答および意見>

1	委員	給食費収入と賄材料費の関係では、いくら赤字になっているのか。
	事務局	令和6年度では、103万円程度の赤字となっている。歳入の予算、歳出の予算内には収まっているので、経理上は問題ないが、学校給食法に基づき、保護者からいただく給食費は食材購入にかかる経費に充てることとなっているため、その部分を比較すると令和6年度は赤字になったというものである。
2	委員	全国的にお米が不足しているが、給食で提供されるお米はどうか。
	事務局	お米は学校給食会から福岡県産米を購入している。今年度のお米は確保できていると学校給食会から聞いている。また、それ以降についても問題ないと説明を受けている。

<議題3「令和7年度 学校給食センター予算について」質疑応答および意見>

1	委員	郷土料理や世界の料理は何のために提供しているのか。また、その目的を知らせてほしい。
	事務局	給食は学校教育の一環として行われており、ただの昼食ではなく、教育的・制度的な意味を持った昼食である。学校給食で提供されるものは、教材でもあり、食育として地域のものや世界のもの時節がらのものを提供し、その食材をきっかけとして考えてもらう。 先日の沖縄料理では残念ながら子どもが苦手な食材が出てしまったが、メニューについては検討していきたい。目的については、食育だより等への掲載を検討する。
	委員	昨年度はオリンピックにちなんで、世界の給食が提供されており、献立表の下のほうでお知らせしてあったと記憶している。 海外のことを知った上で、日本を見つめ直したり、県内だけでなく県外のこと学んだりなど、総合的な学習の中で「食」をあつかう場面もある。給食で実際に食材を食べることで、学びにつながっていると感じている。

2	委員	給食費無償化の財源は。
	事務局	ポートルース芦屋の収益金を財源として無償化している。税金は使っていない。ポートルース芦屋の収益金は、他の事業でも活用されており、詳細は広報あしやに掲載している。

<議題4「その他・各学校残食率について」質疑応答および意見>

1	事務局	残食を減らすための各学校での取り組みについて伺う。
	委員	<p>芦屋中学校では当時、残食が多いという課題があった。そこで、残食が少なかった小学校での取組を見学した。小学校では、一定の時間になると机を前に向け、食事に集中する「モグモグタイム」を設けており、この取組は効果的だった。中学校でも同様の工夫を取り入れた。さらにコロナ禍を受けて「黙食」の方針に移行し、現在も机を前に向けた給食を継続している。</p> <p>また、1年生には入学直後から給食指導に力を入れている。多少時間がかかっても、最後まで食べきってから全員で「ごちそうさま」をするようにしている。1年生のうちに時間内に食べきる習慣が身につけば、2、3年生になっても継続できるので、入学直後こそが指導の勝負どころと考え、重点的に取組んでいる。その結果、確かな成果が表れていると実感している。</p>
	委員	<p>山鹿小学校では、コロナ前には全校で残食ゼロを目指し、達成するとシールを貼るという取組をしていた。コロナになりその取組を無くしてからは、残食が増えている。</p> <p>現在は、ごちそうさまをした後、10分程度パクパクタイムを設け、残さずに食べるよう声掛けをし、残食をなくすよう取組んでいる。</p> <p>また、つぎ分けるときにも、まず食缶を空にするよう均等に分け、その後減らす子、増やす子とつぎなおして、食缶を空にしている。無理に食べさせることはできないので、児童の食べるペースにも合わせながら、取組を行っている。</p>
	委員	<p>芦屋東小学校でも、山鹿小学校と同様のつぎ分け方をしている。その他に給食委員会で「月のめあて」を決めたり、食べる時間を確保できるよう準備を急いだり、声掛け動画を作ったり、クイズ形式で給食の食べ方を考えてもらったりしている。</p>

1	委員	<p>芦屋小学校でも、山鹿小学校と同様のつぎ分け方をしている。令和5年度の半ば頃から、みんなで一斉にごちそうさまをし、配膳台を片付けるようにした。今までがんばって残さずに食べていた子ども、時間になれば下膳できるからがんばって食べなくなったのではないかと感じている。</p> <p>今回、芦屋小学校の残食率の多さを見て、児童の給食に対する意識や職員の意識等、改めて取組みを見直そうと思う。</p>
	委員	<p>先日、1年生の親子レクリエーションに参加し、給食を試食した。その時に給食を食べる時間がすごく短いと感じた。食べる時間が短いことも残食率の増加に関係しているのではないかと思う。</p>
	委員	<p>小学校では給食は学習という位置づけである。そのため、給食時間も授業時間と同様に45分間となっている。給食を配膳室まで取りに行き、準備をするのでどうしても食べる時間が20分から25分間ていどになってしまう。</p> <p>また、食べられないこどもは食べる前に減らしているが、こどもが必要なカロリーを計算して提供されている給食をできるだけ減らしてほしくない。</p>
	事務局	<p>給食は摂取基準が定められているため、残食が多いからといって給食の量を減らすことはできない。自分が食べられる量を考えて配膳してもらい、完食してもらいたい。</p> <p>また、家庭でも食べ物を大事にするということを指導していただきたい。</p>
2	事務局	<p>コロナ以降、学校では給食時間に対面で食事をしていないと聞いた。中学校では、対面での食事をしないことで残食が減ったとも聞いた。小学校では、今後どうするか。</p>
	委員	<p>山鹿小学校では、6月から班での給食を再開している。わりと静かに食べることができている。給食時間残り5分になったら、席を元に戻して給食に集中してもらっている。</p>
	委員	<p>芦屋東小学校では、対面での食事をしていない。隣の人などと話をすることはいいと言っている。</p>
	委員	<p>芦屋小学校では、対面での食事をしていない。</p>